

○議長（春田 新一君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開を11時5分からいたします。

午前10時51分休憩

午前11時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） 皆さん、こんにちは。2番議員、新友会の吉野元です。945票の市民の皆さんからの付託と期待によりこの議場に立たせていただきました。私は、市民の皆さんの代弁者の一人として、市長や市議の皆さん、そして行政の皆さんと建設的で生産的な議論を繰り返し、まちづくりの主役である市民の皆さんが希望を持ってわくわくしながら日々対馬で暮らせるよう、新たな仕組みや制度づくりを全力で提案してまいります。

私が市民の皆さんと目指したい将来像ですが、自然共生型の持続可能な社会です。豊かな自然の恵みに感謝し、市民が助け合い、励まし合って、心豊かに生きていく。対馬はこれから、多くの都会の若者が移住・定住してくる島だと確信しております。私自身も都会から13年前に移住・定住をした経験と、これからの世の中の情勢、そして対馬の可能性を見越して、そう確信しております。空き家や働き方改革など若者がたくさん集まる仕組み、制度づくりが鍵ですが、何よりも大事なものはきっかけ、出会い、人づくり、御縁です。この議場にいる市政を運営する皆さん、私たちが島外の対馬出身者の若者に、対馬に戻ってこんねと頼みませんか。例えばここにいる皆さん、大体24名いらっしゃいますけども、1人5人を連れ戻していただけたら100名になります。若者が増えれば各産業や仕事での担い手確保もでき、高齢者を支える人も増え、対馬の地域経済も回ります。生活インフラも維持できます。リーダーシップを取り、島の活性化の鍵となっている若者の移住・定住に全力で取り組むことで、全てが好転していくと確信しております。個人でも対馬のためにできることはまだまだたくさんあります。ぜひ、皆さん共に頑張っていきましょう。

さて、ここからが本題です。一般質問に入らせていただきます。私の質問は、通告どおり大きく2つでございます。シイタケ産業と磯焼け対策についてです。

まず1つ目ですが、対馬のシイタケ産業の在り方とそれに向けた支援策についてです。シイタケ生産は対馬市の主要産業の一つでした。対馬固有の気候条件から対馬では全国でも屈指の高品質なおいしいシイタケが作れると聞いております。私もホダ場でちぎりたてのシイタケを焼いてバターしょうゆで食べたときに、本当においしい、感動してほっぺが落ちそうになりました。こ

これは本当に島の宝です。お手元に配付している資料を御覧いただきながら御説明をいたします。こちらのパネルで示しております。

これまでの生産量の推移ですけれども、昭和56年最盛期、約500トン、乾燥シイタケです。生産額にして約15億円、生産者数は1,252軒でした。しかし中国産のシイタケの輸入増加に伴い、価格が安くなり、また生産者の高齢化により生産量が減少し続けております。令和3年度には生産量20トン、生産者数も136軒にまで減少しています。シイタケ生産は、私たちに貴重な食材を提供してくださるだけでなく、原木林の伐採再生により明るい里山林の整備、ひいては生物多様性保全にも貢献しております。もう少し詳しく御説明いたしますと、シイタケ原木は落葉広葉樹であるコナラ、アベマキ、クヌギなどですが、これらの樹木を伐採し、原木として活用し、また育てるというサイクルにより、森が明るくなり、林内に多様な植物が増え、ツシマヤマネコや絶滅危惧が心配されているウラボシシジミなどの餌資源が増え、ツシマヤマネコやチョウが住み続けられる環境が維持されます。ところがシイタケ生産は大変に重労働です。私も菌打ちの手伝いを何度かさせていただいたことがありますが、本当に菌打ちをやるだけでも大変です。あるシイタケ生産者さんは、自分はシイタケの奴隷だという表現までされていました。

お手元に共有した資料2のイラストのように、まさに猫の手も借りたいくらいでして、原木の伐採、玉切り、植菌、伏せ込み、ホダ起こし、そして水の管理、天地返し、採取と。採取するタイミングもシイタケ次第、天候次第というところなんです。その後も薪やボイラーを使った乾燥など夜通しの作業があります。また天候によって生えたり生えなかったり、イノシシの被害にあったり、原木を切り出した後の生えてくる芽が萌芽更新と言いますけれども、鹿に食害で食べられてしまう、その対策も必要となっています。それでいて少し価格は戻ってきたものの乾燥シイタケ、キロ5,000円、令和3年度の実産量で20トンで言えば1億円の売上げ、これ対馬全体です。仮に136名の生産者さん、単純に割ると平均年収が73万円の売上げになります。ここから経費を引くわけですからやればやるだけ赤字の状況です。また追い討ちをかけるようにシイタケ生産者は高齢化し、これ以上生産を続けることができないと言われていらっしゃる方も多くいます。なんとか市からの支援を拡充してくれという相談も多く受けております。一方で、20から40代でシイタケ生産をしている人は本当に数えるほどしかいないと聞いています。担い手を確保し育成しなければ、あと10年もすれば対馬のシイタケ産業は途絶えてしまうと大変危惧しております。シイタケ生産者さんだけではなく、農林水産業に関わる方々は、我々市民が生きるのに必要な食料を作り、自然環境を守ってくださる言わば公務員的な仕事をされていると言っても過言ではなく、税金を投入して一次産業の担い手を雇用する、守ることは、これからの時代十分に検討していくべきことだと思います。対馬のシイタケ産業を維持・発展させるためには現役世代がまだまだ御活躍される今手を打つしかありません。今が最後のチャンスだと思っています。

す。

そこで市長にお聞きいたします。今後の対馬のシイタケ産業の維持・発展に対しての在り方意気込みについてお考えをお聞きします。また、現在、市の支援状況とその効果、課題、それを踏まえた今後の短期、中長期の計画をお聞きします。特に生産者さんが困っている原木調達の支援メニュー、そして今後に向けた新規生産者の確保、育成、そして高付加価値化と販路開拓などについて具体的にお答えください。

次に、藻場再生の取組状況と今後の戦略的な磯焼け対策支援についてです。対馬の基幹産業は水産業、この水産業の活性化は島の生き残りにおいて、特に重要な課題です。海藻類が藻場から消えて砂漠化する磯焼けが全島に広がっています。藻場は海のゆりかごと言われ、魚やイカ、貝類などの隠れ家、住みかにもなっている場所です。対馬の漁民にとっても魚介類やヒジキなどを収穫し、現金収入を得ていた重要な場所です。今は藻場が生えていない状況が続いております。

これまでに、漁業集落や藻場再生活動組織で、食害生物から海藻を守る対策、海藻の種を植え付ける作業、食害生物自体を駆除する事業など行われています。

また、2023年7月の広報対馬の特集号で取り上げられた食べる磯焼け対策は、お手元の資料にありますけども、臭すぎて食べられなかったアイゴ、イスズミなど食害魚を活用するプロジェクトです。こちらにあるとおり全島の定置網に入った大量のアイゴやイスズミを漁業者が捕獲し、漁協、運送業者さんの協力を得て、加工業者に受け渡し、加工して付加価値を付けて商品化する事業です。5年間の補助事業が終わった今年度は、地元の水産加工業者が自主的に食害魚を仕入れる動きになっています。これは本当にすばらしいことでありまして、全国的にも評価され視察も多く来ていると聞いております。対馬市が事業の立ち上げを支援して、5年後には自走してもらうような作り込みというのは、行政の支援としてもとても理想的な形だと思っています。

そんな中で、鴨居瀬で活動する漁民の方から、今年度、防護柵をしていない場所で、天然のヒジキが乾燥250キロ以上も収穫できているという大変嬉しい報告もいただいています。対馬のほかの沿岸でも人知れず海藻が再生している場所があったかもしれません。

一方で、隣の壱岐市では、市の自主財源で、イスズミを駆除するイスズミハンターに対して、1匹500円の報償費を払っていて、その結果捕獲数が伸びて、令和元年度から4年間で3万1,830尾、その結果、ヨレモクという海藻が約332ヘクタール増えたと聞いています。それが今話題になっているブルーカーボンクレジットとしても販売できるようになり、CO₂の吸収量、約974.6トン、そのうち、36.6トンが金額にして128万7,000円が販売されたと、壱岐新聞で2024年3月末で報道されていました。

対馬でも希望の光が差し込んできた今だからこそ、改めてエンジンをかけなおして、対馬で藻場再生の対策を戦略的に進めていく必要性を感じています。そのためには、まず、現状把握をす

ること。これまでに磯焼け対策として、どのような活動をしてきていて、どんな成果が出ているのか、しっかりと把握した上で一元的に整理することがまず大事だと思っています。

それらの現状を受けて、藻場再生の可能性のありそうな場所を特定して、モデル事業として集中的に予算や人的資源などを導入して、戦略的に事業を進める必要があるのではないかと思います。

そこで市長に質問をいたします。

市が関わっている磯焼け対策の取組内容について、またその実績について教えてください。

次に、全島で磯焼けや藻場再生状況について、市長が把握されていることがあれば教えてください。

そして、今後、対馬沿岸のどこの藻場が再生しているかを把握するための調査ができないか、市長の考えをお聞きします。

最後に、藻場再生活動やモニタリングを集中的に取り組む地域の選定、その地域に対する戦略的な対策への支援について市長の考えをお聞きいたします。

以上です。よろしくお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 吉野議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬シイタケ産業の在り方とそれに向けた支援策についてでございますが、まず、今後の対馬のシイタケ産業の維持・発展に対する考えにつきましては、言うまでもなく、対馬原木シイタケは、本市を代表する特産品の一つであり本市の主要産業であります。農林水産業を代表する産業の一つと考えております。また、議員御指摘のとおり、シイタケ産業を推進していくことにより、アベマキ、コナラなどの原木林の伐採、再生が繰り返されることで、里山の整備や保全、ひいては、生物多様性保全にも貢献しており、本市にとって重要な産業と認識しているところでございます。しかしながら近年は、生産者の高齢化や後継者不足等により、年々生産者及び生産量は減少傾向にありますことから、市といたしましても長崎県をはじめ、対馬農協、対馬森林組合をはじめとする林業事業体など、関係機関と連携、役割分担を行いながら、対馬ならではの原木シイタケ産業を維持してまいりたいと考えております。

次に、シイタケ産業の維持・発展のための支援状況と今後の計画についてでございますが、本市におきましては、シイタケ生産推進補助金として種ごま購入に対する支援を行っており、これまで対象植菌個数1万個以上10万個未満で1.5円、10万個以上で2円の支援であったものを、令和6年度より生産者の労働力や生産規模に応じ、最大8万個以上の植菌で3.5円を支援するなど、小規模から中規模、大規模生産のそれぞれに対応できるようメニューを改定いたしました。

また、シイタケ栽培にとりまして一番の重労働であり生産者が大変苦慮しております原木の調達についても、令和5年度より支援制度を開始しており、令和5年度で31人、令和6年度で43人の方に活用いただいております。その効果とまでは言えませんが、生産者皆様の御努力もあり、本年度の長崎県乾しいたけ品評会では、昨年度出品数126点を上回る142点の出品がっております。

しかしながら、対馬シイタケの現状は厳しく、昭和56年に1,252戸であった生産者は、令和5年度には102戸に減少、生産実績も令和5年度で21トンであり、平成29年度と比較しますと半減となっており、今後も大変厳しい予測結果となっております。

そのような現状を打破するべく、長崎県農林部をはじめ、一般社団法人離島振興地方創生協会、対馬振興局、対馬農業協同組合、対馬森林組合、シイタケ生産者など、主要関係機関による対馬シイタケ復活プロジェクトを本年4月23日に発足いたしました。

同プロジェクトは、各関係団体のトップ等で構成するプロジェクトチームとその下部組織として実務を担うワーキンググループを設置し、対馬シイタケ復活のための取組を進めていくこととしており、主要な対策として原木対策、生産品質対策、出口対策を柱に位置づけております。

この原木対策分野では、原木林マップの作成や森林所有者と伐採希望者のマッチングをはじめ、伐採業者の確保、原木供給体制の検討等を推進することとしております。また、生産対策分野では、温暖化による生産量減への対策や、生産者の技術力アップを、出口対策分野では、一般社団法人離島振興地方創生協会が全国に有する販売網を中心に対応できる品質の確保等も踏まえ取り組むこととしております。

最後に、担い手の確保についてでございますが、本市においてはシイタケ産業に限らず、あらゆる業種で発生している大変難しい問題と認識しております。なかなか特効薬はございませんが、今後も引き続き移住意向者に対するPRを強化するとともに、国の支援制度であります農業次世代人材投資事業による人材の確保や第一次産業を中心とした兼業による生産拡大の推進などの取組を強化していくことで、少しでも担い手の確保に結びつけていきたいと考えております。今後も関係機関等と連携を密にしながら、対馬シイタケ復活のための取組を強力に推進いたしますので、御支援御協力をお願いいたします。

次に、藻場再生の取組概要と今後の戦略的な磯焼け対策支援についてでございます。

対馬市における藻場を取り巻く環境は、地球規模の温暖化が影響し、海水温の上昇や植食性魚類の活動活性化による食害の顕在化、海藻の生育の阻害など多くの要因が複合的に絡み合っています。植生に大きな変化が起きており、カジメ、ヒジキ等の大型の海藻が衰退または消失して、海底の岩や石が露出した磯焼けの拡大が深刻化しております。

藻場は多くの水生生物の生活を支え、産卵や幼魚、稚魚に生育の場を提供する以外にも水中の

有機物を分解し、栄養塩類や炭酸ガスを吸収し、酸素を供給するなど海水の浄化に大きな役割を果たしています。対馬市の具体的な取組としましては、離島漁業再生支援交付金や水産多面的機能発揮対策事業を活用しながら、令和6年度は魚類駆除16地区、ウニ類の駆除28地区、貝類の駆除9地区、藻類の種苗投入18地区と、その活動範囲は拡大しており、全島的な取組につながっております。そのほか定置網で漁獲された魚類につきましても、流通実証試験により独自の支援策を進めてきたところでございます。この5年間の成果につきましては、離島漁業再生支援交付金の基本交付金総額が約13億8,000万円、水産多面的機能発揮対策事業の総額が約3億6,000万円、未利用魚等流通促進支援事業が約3,200万円、それらのうち藻場に関連する事業費は約6億3,000万円となっております。駆除の総数としましては、食害魚の駆除が約16万3,000尾、ウニにつきましては約300万個の駆除実績となっており、食害の抑制としての効果を発揮しております。駆除したもののうち鮮度のよいものは食材への有効活用や一部堆肥化につながっております。その中でもイスズミ、アイゴ等の魚類については補助事業を活用した駆除にとどまらず、定置網で漁獲されるものについて4年間の流通実証実験を通じ、確立した島内流通体制により、安価で安定した原料確保を飲食店や学校給食へ供給いたしております。磯焼けの状況や藻場の再生状況の把握につきましては、各組織が行っている定点観測によるモニタリング調査や研究機関や大学と連携し、藻場環境の委託調査業務により、ドローン調査や環境DNA調査、衛星画像等を用いた技術的な調査研究のほか、漁業者からの情報収集を行っており今後の状況把握においても、地元住民からの情報や既存補助事業を活用した漁業集落活動等により状況把握に努めてまいります。

藻場の回復は、食圧対策に加え海水温等の環境変化に大きく左右されるため、早急な効果発現は非常に厳しい状況ではありますが、まずは駆除の取組を継続、拡大することが先決であることから、安定的な予算確保に向けて国県に対し積極的に要望を行ってまいります。

また、これまでの情報を集約し藻場回復実証のモデル地区につきましては、現在の交付金等の補助事業の箇所と重複ができないことから、場所の選定や協力体制も含め地域と協議をしながら、状況に応じて対馬海域の海水温上昇等に即した南方系海藻種の導入や現在一部地域で導入されている河川流域での植林の拡大と様々な手法の模索を継続してまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） 市長、答弁ありがとうございました。先に、シイタケ産業の在り方について追加で質問させていただきます。

まず、令和5年から令和6年度にかけて補助金メニューの拡大をされたということで大変うれしく思いますし、シイタケ生産者さんもそのこと熟知されていない方もいらっしゃるのかなと思

いますので、ぜひ頑張っていらっしゃる皆さんにしっかりと補助金が届くように御配慮いただければと思いますし、この補助金のメニューで十分足りているのかどうかというのも、また、直接私もお聞きしようと思いますけども、生産者さんに聞いていただいて、できる範囲で補助をしていただければと思います。ありがとうございます。

私から質問ですけども、原木調達の仕組みについてです。私もいろいろと現場の声を聞く、あるいは現場に行く中で、一つ思うのはやはり原木を切り出す場所が、対馬は急峻な場所が多いということで、かなり危険も伴いますし、作業にも時間かかるということでもあります。そういう中で、今、作業しやすい平地にコナラ、アベマキなどを植えるといったような事業を今後10年20年見越して育てていくことになりますけども、そういった対策が考えられないかなと思っています。具体的には耕作放棄地された畑ですとか、細かい人工林が放置されている場所も散見しますので、そういった場所の活用はどうかと思います。

もう一つは行く行く原木の調達が一番生産のネックになるのであれば、島外から原木を仕入れるというようなことも検討されてもいいのかなと思いますが、その点、2点いかがでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この耕作放棄地にコナラやクヌギを植栽して、将来的に、特にこの10年後を見据えた施策として、今、先ほども答弁いたしました対馬シイタケ復活プロジェクトの中でも既に検討もされておりますし、対馬島内を見渡しましても、既にこの畑等にコナラ、クヌギ等を植栽されて、これをシイタケ栽培に活用されてあるところも多々あるものというふうに私自身認識しているところでございます。

そして次に、この一番のネックとなっております原木の仕入れについては、補助も1本当たり180円ということを出しているところでございますけども、ただ、今担当のほうに聞きますと、値段がいろんなあれで幅が広がっているということで、ここについては、今後そこら辺を集約しながら適正な価格帯に持っていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

それと2点目のシイタケ栽培に島外から原木を仕入れたらどうかということではありますが、私、以前聞いたことがあるんですけども、島外から仕入れるとなりますと、その原木の中に害となる虫とかそういったものが入ってくれば、対馬の原木自体にも大きな影響を与えるといったことで、ここは慎重に取り組むべきというようなことを以前聞いた記憶がございますので、このことについてはまた研究もしながら行っていければなと思っております。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） ありがとうございます。ぜひ前向きに検討いただければと思います。

次に、原木を調達する人、あるいは生産者の担い手確保の問題についてです。市長の答弁にあ

りました農業人材確保支援事業ですとか、あと兼業の拡大というのも一つ有効かなと思いつつ、私から今日御提案を差し上げたいのは、生産者の後継者として島おこし協働隊の制度を使えないかと思っております。これはシイタケに限らずですけども、農林水産業で今全国でもそういった島おこし協働隊、全国では地域おこし協力隊といいますけども、それが増えてきていると。特に委託型、派遣型というのも新しくありまして、市役所、行政が直接雇用する以外にも民間の個人あるいは団体が手を挙げて公益性の高い事業に対しては、そこに地域おこし協力隊を投与するというような柔軟な制度も導入されて、それで今全国でもそういう協力隊が増えているというふうに存じております。そういった協力隊制度を使って、シイタケ生産者さんに弟子入りをして技術を継承してもらうとともに、高齢化している皆さんの力仕事を手伝うことで生産量を増やしていくと。それを3年間でしっかりとやっていき、3年単位で人を増やしていくというようなアイデアはどうかと思っています。夏場とかシイタケ生産でも比較的時間のあるときは林業の担い手、例えば森林整備とか防鹿柵の設置など、あるいは農業の担い手とか獣害ハンターとしても活躍してもらう、こういったような考えが将来的にできないかなと思っておりますので、その点について市長のお考えをお聞きしたいと思います。お願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大変すばらしい提言だというふうに受け止めております。

しかしながら、ただ、議員も御承知かと思えますけども、近年この協働隊のほうはかなり希望者が少なくなっているという現状がございます。対馬市も多くこの協働隊を抱えてはおりますけども、年々応募者数が減ってくるということで、ここは担当も含めて悩みの種ではございますけども、今、議員おっしゃられるような委託型とか、団体委託型、こういったところが可能であれば、シイタケの後継者としてすばらしいことだなというふうに思っております。もう少しこのところを勉強をしながら進めることができればというふうに思っております。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） ありがとうございます。ちなみに北海道の東川町は人口8,500人弱ですけども、80名の現役の隊員がおります。およそ100人に1人は地域おこし協力隊と。島根県の海士町では87名、西粟倉村、起業が多く誕生している村ですけども、こちら64名ということで協力隊制度もやり方、魅力的な制度とか仕組みっていうことを作り込めば。あとは先ほど冒頭で申し上げた御縁をうまく活用して、ぜひUターン者も含めて来ていただくというところまで行けば、十分そういう全国では需要がまだまだ協力隊、地方移住っていうのがありますので、ぜひご検討いただければと思います。

シイタケの最後の質問です。出口戦略についてです。いわゆる離創協の皆さんが中心に販路拡大されているというふうに聞いておりますが、どうしてもシイタケは少量多品目ということで、

いかに付加価値をつけて販売していくかに尽きる。なかなか大口のロットで戦っていくのは難しいという中で、例えば高級店の直販とか、あるいは地産地消とか地域に還元するような仕組みも合わせて考えていけるかが課題と思っておりますが、今、今後シイタケをどういうふうに売っていくかみたいな具体的な議論がどこまでなされているのか、もし分かる範囲であれば教えていただきたいと思います。お願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 後ほど担当部長のほうからも少し私の答弁が不足するところは、つないでもらおうと思っておりますけれども、私自身、やはりこの対馬の森のアワビと言われるシイタケにつきましては、これを乾燥させて売るよりも、やはり議員おっしゃられるように、直販で東京辺りの高級レストランとかそういったところに直接送ることが可能となってくるのであれば、また対馬のシイタケが見直されるものというふうに思っております。もう既に漁業のほうでは錢本さんたちがフラットアワーということで、直接高級料亭辺りに送り込まれておりますけれども、このようなことを参考にしてやれば、もう少しシイタケの生産者の皆様の所得も増えてくるということで進めるべきだなというふうには思っております。そのほかは部長のほうがちよっと今の離創協辺りの……。

○議長（春田 新一君） 農林水産部長、平川純也君。

○農林水産部長（平川 純也君） お答えいたします。

まず、出口対策につきましては、先ほど申しましたように離島振興地方創生協会、これが中心となって今から出口戦略を組み立てていく予定としております。ただその中で先ほど議員が言われたように、やっぱりそのロットの問題、これについてはなかなかその大手につきましてはやっぱり安定した収量、出荷量、これを確保しなければなかなか難しいところもございますので、まずはですね多くの選択肢を持ちながら、その中で有効な場所に適宜送っていくような対策を取ってきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） 答弁ありがとうございます。シイタケ産業については、本当にこれから勝負だと思っていますし、お手元に共有させていただいたこれ私がつくった資料ですが、こういった形で本当に多岐にわたる市からの補助もありますし、今後、短期、中長期的な計画を具体的に落とし込んでいただいて、しっかりと生産者さんとかあとはその周りの協力者の皆さんがしっかりとこういうふうやっていくんだというような事業計画みたいなものをしっかりと戦略的につくっていただいて、それでもって10年後を見据えた、例えばですけども、対馬シイタケまだまだやれるばい復活プランみたいな形で考えていただいて、進めていただければと

思います。ありがとうございます。

続いて、藻場再生の取組についてです。市長の答弁にありましたモニタリングについてですけども、本当に今、環境DNAとかいろいろな技術があつて、私も今勉強していますけども、このスマート水産業入門というのにもいろいろな水産業のモニタリングをする技術とか、資源量を把握するような技術というのも普及されているということですので、ぜひこういった情報をしっかりとまとめに集めていく、これ定点観測だけじゃなくて全域で面的にどうなっているのかということのもしっかりと捉えていただきたいと思いますし、それを一元的に把握をして、それでもってどこが再生可能なのか、藻場が再生し得るのかということもしっかりとデータで持って示していくと。そのことでモデル地域の選定ですとか、そこに集中的に事業をやっていけるようになってくるんじゃないかと思っています。こちらも参考までにお手元に配付しています資料、これも私が今つくったものですけども、やはり本当に対馬沿岸というのは、900キロ以上ある中でどこでどのような海の状況がなっているのかというのを把握するのも大変だとは思いますが、しっかりと漁民や市民のあるいは研究者の情報というのを受け止めて現状を把握する、そこから戦略を組み立ててモデル地域、集落の特定ですとか、戦略的に取り組む項目の整理、何が一番効果的なのかということも見定めた上で戦略を策定する。その上でモデル地域の実施ですとか、あるいはその後の水平展開というものを考えていく。こういうような道筋を立てて戦略的に藻場対策をしていく。これを市民や漁民の皆さんに開示をして、一緒にやっというふうなチーム一丸となって盛り上げていく、そういった動きをぜひ市のほうでつくっていただければと思いますけども、こういう戦略的にやっていくに当たっての意気込みというか、アイデアみたいなのがあれば、ぜひ市長からお聞きできればと思います。お願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この藻場回復の実証モデル地区につきましては、私も本当に分らなかったんですけども、担当者のほうといろいろと話をしているときに、先ほども答弁いたしましたように、例えば今現在やっている補助事業のエリアとこれ重複させることができないんですよということで、ちょっと私はそれを聞いてちょっとがっかりしたんですけども、ここら辺をもう少し研究をしながら、そして地域の方たちと適当な場所の選定と申しますか、そういったところも進めながらやっていけたらいいかなというふうには思っております。

○議長（春田 新一君） 2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） ありがとうございます。その補助事業との重複についてはぜひ国とも協議をしながら、ぜひ進めていただきたいと思いますし、私もそういった動きを取れればと思っていますので、よろしくお願いします。

最後になりますけども、行政も事業者も限られた予算、人材の中でいかに成果を出していくか

が問われる中で、成果がなかなか出ないことというのをやり続けるのはなかなか難しいということとは皆さん認識があらわれるかなと思います。であれば、これまで実施してきた事業の成果や費用対効果というものを評価する。評価した上で改善ができるものは改善していく、またはやってみる。それでも成果が出ないものは思い切って事業を変えて、新しい挑戦をしてみるというような前向きな事業計画、戦略が必要だと思っております。そのような事業を進めていくことが重要だと思いますので、ぜひ今回一般質問で取り上げたシイタケ産業や磯焼け対策に限らず、各部局におかれましては、いま一度各事業の全体像やプロジェクトの戦略を見直していただいて、具体的な目標設定とか実行に向けた事業計画づくりというのを実施していただいた上で、市民に開示と一緒にやっていこうというような機運をつくっていただきたいと思いますし、私たち市議も一緒に考えていきたいと思っております。ぜひ、市長、副市長、そして各部局の部長さんが対馬市のプロジェクトリーダーとしてその職責を担っているわけですから、各部局の職員の皆さんや関連する事業者、市民がよしやってやるぞというように思えるような事業運営をしっかりと進めていただきたいと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

これで、私の一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（春田 新一君） これで、吉野元君の質問は終わりました。

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開は午後 1 時 5 分からといたします。

午前11時51分休憩

午後 1 時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。7 番、安田壽和君。

○議員（7 番 安田 壽和君） 皆さん、改めましてこんにちは。会派對馬の風の安田壽和でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

5 月 1 8 日に執行されました対馬市議会議員一般選挙におきまして、市民の皆様の御支援を頂き、ここに議会の席を賜りましたことに対し、ここからではございますが深く感謝を申し上げます。

今回の選挙において、私の政治信条として「市民の暮らしの声を市政に反映し、市民の皆様と共に創るしま（対馬）づくり」を目指し、市民の方々に訴えてまいりました。この選挙戦を通じて、市内各地において市民皆様から様々な御意見、御要望をいただきましたので、市民皆様の声を市政に反映すべく市政に対する諸課題については、今後の議員活動において取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従って質問をさせていただきます。